

学生卒業設計制作NCF空間ディスプレイアワード受賞作品

受賞年	2025年		
受賞タイトル	奨励賞		
区 分	Ⅳ. 都市ディスプレイデザイン		
フリガナ	ニシオ セイ		
制作者名	西尾 晟		
フリガナ	タイドウタイガクコウガクブケンチクガッカケンチクセンコウ		
卒業時の大学 学部・学科	大同大学工学部建築学科建築専攻		
フリガナ	フナハシ ニナ	職名	
推薦者名	船橋 仁奈	准教授	
フリガナ	25.1キロメートルニクラスーチイキテツドウエキサイヘンケイカカー		
作品名	25.1kmに暮らすー地域鉄道駅再編計画ー		
概 要	①発想の独創性 鉄道路線が生活動線となる都市インフラの PASS としてのみ機能している無人駅舎に様々な機能空間を組み込み、農村部に新たな commons を形成する。 ②空間のインパクト ホームが生活の一部となる飲食店・オフィスなどの機能をプラットフォームの一部とすることで、鉄道路線やまちを介して新たな人々の活動を生み出す。 ③生活の質の向上 路線を介して起こる循環路線を介しての駅と駅の循環・複合駅を介しての駅とまちの相互作用を発生させ、多様な人と人の関係性を生み出す。 ④社会的な意義 地域農村部の commons 身のまわりの環境を見直し、資源化し、ネットワークを構築することにより、今後の都市農村交流の拠点となる事を期待する。 ⑤空間ディスプレイ 25.1km に暮らすー地域鉄道駅再編計画ー		

制作者名

西尾 晟

作品名

25.1kmに暮らすー地域鉄道駅再編計画ー

【コンセプト解説】

BackGround

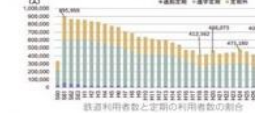
私が生まれ育った岐阜県恵那市は、旧・恵那市と恵那市の市街地である大井町および長瀬町である。それに対して恵那市地区では、過疎化が進み、市街地と恵那市地区を結ぶ明知鉄道線は赤字が続くなど、廃線の危機に瀕している。学生や高齢者にとって重要な都市インフラである明知鉄道線が廃線になれば、恵那市地区の衰退がさらに加速する可能性がある。



Target Site

明知鉄道の概要

明知鉄道は昭和60年11月16日に国鉄明知線を引き継いで第三セクター方式の経営形態として発足し、開業した地方鉄道である。当鉄道は岐阜県恵那市大井町（中央線恵那駅）を起点に、恵那市明知町に至る東美濃地方の高原地帯を縫って南下する全長25.1kmの路線、片道51分となっている。



Element

各駅がもつ要素抽出



Proposal 1

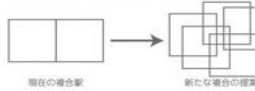
鉄道路線が生活動線となる

要素抽出により、全11駅の中の6駅が複合駅となっていることが分かった。また、駅内に通過するシステムとなっているためプラットホームは常に出入りが自由である。これらの要因から、プラットホームが生活の一部となるような複合駅を提案する。鉄道路線を介して生活がまじり合うことにより様々な滞在者、地域住民のニーズに答えられるような新たな生活動線を提案する。

Proposal 2

複合の方法論

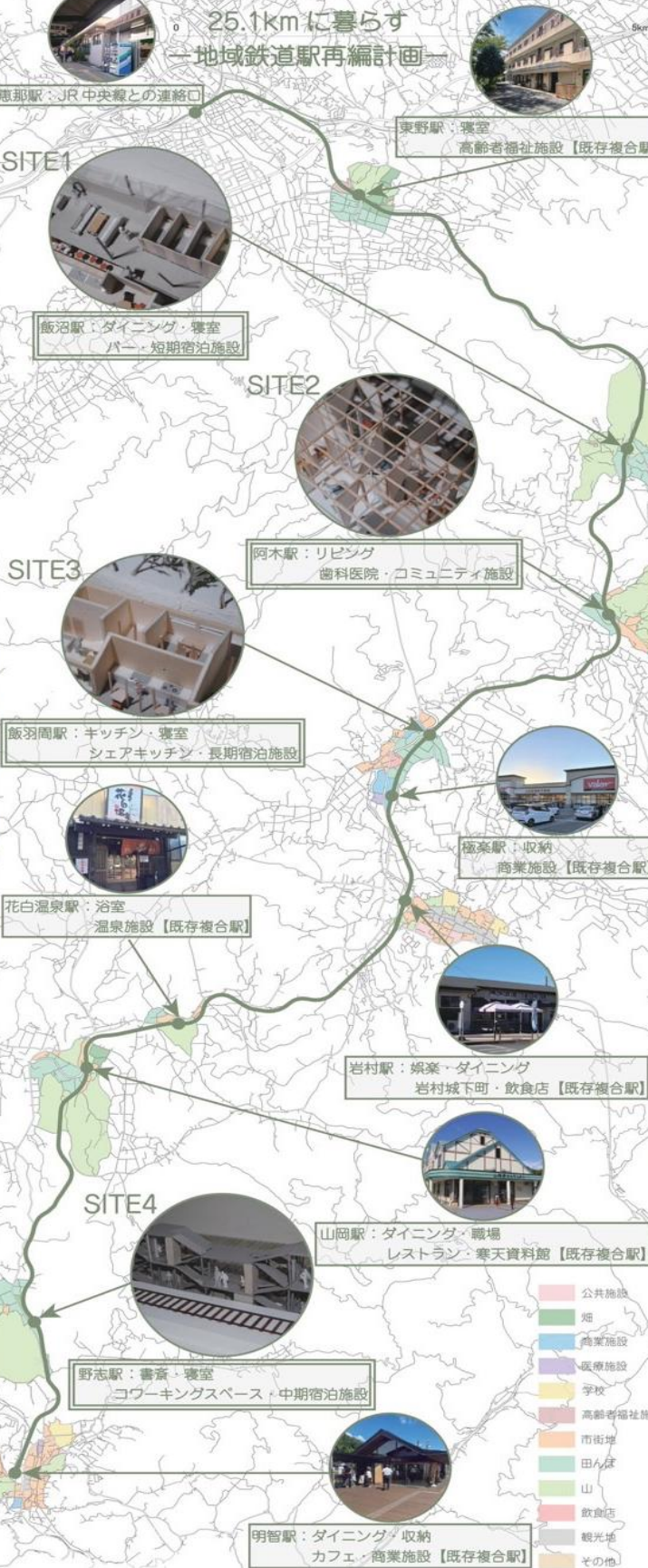
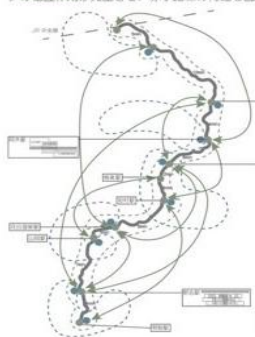
現在の複合駅の複合とは名ばかりであり、2つの施設が隣接・併設しているだけの状態となっている。つまり各々の機能が独立した状態となっており、複合の可能性を最大限引き出すことが出来ていないと考える。そこで複合の方法論によって複数のビルディングタイプが相互関係を生まれ出し、対象敷地とその周辺の巻き込んだ新たな複合建築を提案する。



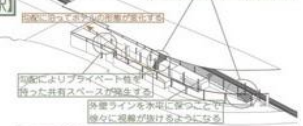
Diagram

路線を介して起こる循環

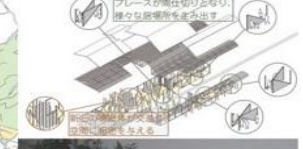
それぞれの駅が生活に必要な要素を内包し、地域産業とも関係性を持つ。この路線を様々な目的を持った利用者が利用することで、路線を介しての駅と駅の循環・複合駅を介しての駅とまちの相互作用が発生し、赤字路線の再記を図る。



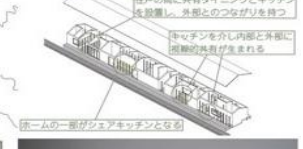
SITE1 飯沼駅 駅×バー×短期宿泊施設
高低差4mの勾配を持つ敷地に、バーと短期宿泊施設を組み込んだ複合駅である。4mの勾配をそのまま建体内で吸収し、外階段を水平に保つことで、勾配に沿って内部空間の開放性が最大化される。また、宿泊施設内の余白空間にはパティオスペースが配置され、改札口も兼ねた、駅と宿泊施設を繋ぐ橋となっている。25.1kmの生活動線のうち、ダイニングと書斎の役割を担う。



SITE2 阿木駅 駅×歯科医院×コモンズ
廃止されたホームが残る敷地に、歯科医院とコモンズを組み込んだ複合駅である。プライベート性の高い学習スペースは、近隣の学生や通勤者の居場所となる。駅周辺には住宅が点在しており、駅が地域コミュニティを形成する場となる。在来軸組工法による筋交は、斜め型の開口切りとして機能し、組み合わせることによって様々な空間を生み出す。25.1kmの生活動線のうち、リビングの役割を担う。



SITE3 飯沼周駅 駅×キッチン×長期宿泊施設
日本の田舎風景を有する敷地に、コミュニティキッチンと長期宿泊施設を組み込んだ複合駅である。各住戸のキッチンが駅のプラットホームにまで介入し、プラットホーム全体が緑のよう役割を果たす。住戸のキッチンはすべて共有され、長期滞在だけでなく、地域住民や農業体験者が収穫した食料を調理するために訪れる。25.1kmの生活動線のうち、キッチンと書斎の役割を担う。



SITE3 野志駅 駅×コワーキングスペース
豊かな農村風景を持つ敷地に、コワーキングスペースと中期宿泊施設を組み込んだ複合駅を提案する。この敷地には、法律によってGLとプラットホームの間に約2.5mの高低差が生じている。周辺の山並みから着想を得たボリュームを階段にすることで、プラットホームへの緩やかな動線を確保する。ホームが、ノマドワーカーの活動拠点となり、25.1kmの生活動線のうち、書斎と書斎の役割を担う。

